

けで、二人で終日ボールを打ち合ったそうである。

荻村氏は昭和二十六年、当時ではまだ珍しかったスポンジラケットを駆使して軟式全日本選手権で優勝して一躍一流選手の仲間入りをはたし、翌二十七年日大に転校されて、その年の全日本チャンピオンとなっている。

その後の活躍はマスコミなどで報道されているので省略するが、氏のプレイヤー、指導者、論説者、役員、内外のコーディネイチャーと卓球界のあらゆる分野に於ての長年月に渡っての活躍は、ただ驚嘆するのみである。

私は少、青年時代の多感な時期に、この様な人に親しく接することが出来、一生の幸せこれに過ぎるものはないと思っている。

書きたい人、書きたいこと、思えばきりが無いが、最後に末筆ながら、当時親身になって我々卓球部の面倒を見て下さった藤崎、古川両先生に、不断の欠礼をお詫びし、満腔の敬意を表して筆を置くことにする。



白球に夢をたくして

七期生 加々美信光

早いもので、西高卓球部卒業後二十年以上にもなる。当時は、まだ戦後の苦しい時代で、ほかに何の楽しみもない若者が、小さな白球を追って夢中になっていた。風呂屋の鏡の前で連日素振りの練習をして気狂い扱いされた先輩が現実이었다。

小生が入学した頃は、すでに荻村さんは卒業されていた。まだ都立大におられた頃で、それ程世間にも知られておらず、よく西高にこられては、われわれを相手に練習をされていた。あのリズムカルなフォームに接するだけで、われわれもうまくなったような気になったものだった。この意味でもわれわれは非常に恵まれていた。

今、思い出しても、当時のわれわれは馬鹿みたいに夢を追いかけていたのだと思う。たしか、入学した年の昭和二十七年にボンベイで開かれた世界選手権で、佐藤さんがスポンジを駆使して、日本人ではじめて世界選手権を獲得した。その後、バーグマン、リーチのイギリス勢が日本を訪れ、日本勢は見事に返り討ちにあった。今の後楽園のアイス・スケ

ト場で親善試合が行なわれ、当時日本一と言われた藤井さんや佐藤さんが、バーグマン、リーチの神技の前にコテンコテンにやられたのを覚えている。小生などは、ポカンと口をあけて、彼らの神技に酔いしれていたが、試合が終ったあと、荻村さんが「藤井はバカだ、俺なら勝てる」と言ったのはびっくりした。こんな調子だから、みんなが思い思いに「世界一」を夢みた。真面目になって「こんなことでは世界一になれない」なんてことを部誌に書いたりした。今でも、こんな誇大妄想狂みたいところが残っていて、足が地につかないところが小生にはある。

当時の卓球部は、何でも、東京都で四位前後だったと思う。入学した当時は三年生に若山さんがおられ、この人にはスイングの基本を徹底的に教わった。もう一人、女性で斎藤さんという方がおられ、この人の豪打は物凄く、滅多なことでは勝たしてもらえなかった。一年上には内田、沼口の両先輩がおられた。内田さんの左腕からの流しボールには徹底的にいじめられた。このため、今でも「ギツチョ」と聞くとき身震いがする。沼口さんは華麗なフォームの持主で、調子に乗ると手がつけれない人だったが、勝負にはいつもあっさりされていた。沼口さんとは逆に、一年後輩の浜田君はいやらしい人だった。あの仏頂面でコートの中にデンと構えられると、壁に向っているようで、勝てるような気がしなかった。一年後輩には、この他村田、遠藤の両君がいた。村田君

は何でも色々なことを試してみられる人で、当時は何も完成していなかった。卒業後大分完成されたと聞いたが、在学中に実現していれば、われわれも東京で優勝位は出来たかも知れない。遠藤君は強打の持主だったが、大分荒っぽい人だった。生徒会の会長をされたりして各方面に活躍されたが、卓球でも威勢はよかった。同期には今の今野さん、当時正田さんといった女性がいた。今どんなになられているかは知らないが、昔はやせたスマートな人だった。卓球はそれ程でもなかったが、面倒見のよい人で、随分お世話になった。

しかし、小生にとって最大の思い出は、二年の秋に全日本選手権のジュニアの部に東京代表として出場したことだと思う。荻村さんも一般の部に出場され、二人で夜行列車で天理に出掛けたこと、三日程、天理大の体育館で秘密練習をしたことなどが鮮やかに思い出される。この大会で荻村さんは初の日本選手権を獲得され、さらに世界選手権代表に選ばれ、そのまま、世界一の栄冠を射とめられた。まさに旭日の勢いというのは当時の荻村先輩をいうのだと思う。いま小生はロンドンに勤務している。荻村さんが世界選手権でロンドンに來られた当時はまだ反日の気運が強かったと聞いている。荻村さんが床屋で断われたという話を今でも覚えている。現在ではSIR付けで愛想よく髪を刈ってくれる。まさに隔世の感がある。しかし、そこには二十数年の歴史の積み重ねがあるであろう。西高卓球部の思い出は終生私を離れない。